

ニ - ト予備軍の心理を理解するには.....??

ニ - ト (Not in Employment, Education or Training 職業にも学業にも職業訓練にも就いてない (就こうとしない) 人のこと。) と呼ばれる若者が増えている。

大学・短大合計進学率 48.6% の時代だけに、増えるのは不景気故の就職難かとも思うが、大学卒業者の就職率が 55.0% と知ると、どうも就職難という外的要因だけではなく、就職に対する若者自体の内的要因もあるのでないかと感じていた。

そうした折、ニ - トの言葉が使われる以前からこの側面に取り組んだ本「就職がこわい」の書評が目にとまり、購読した。

著者は、精神科医であり、また大学の教壇にも立ち、就職委員として学生の就職相談にも携わっているだけに、数多くの事例から考察している。

著者によれば、彼らの根底には、『『どうせ私なんか』と根拠もなしに自己評価を下げ、『私はその他大勢だから』と、(自己自信のなさ故の不安から) 就職をして社会に参加する人生に背を向けていながら、一方で『私にしかできないこと (自分らしさ) がきっとあるはず』と、いつ来るともしれない“名指しでの辞令”を待ち続けている矛盾心理がある」といい、早期の離職や結婚感にも同じ心理が見られるという。

また、今の若者の多くは、「皆さん！」というような呼びかけは他人ごとと耳を貸さず、自分だけへの呼びかけである「メッセージ」を待っているとか (授業の時、心しょう、っと！)。

こうした若者は、自分だけへの声かけをしてくれる宗教とか詐欺まがいの勧誘にのり易いともいう。

「待ち続ける」我が子を「好きな仕事が見つからないなら.....」と、いつまでも庇護できないのに「理解ある親」を演じようとする親の曖昧さ (自己肯定感の低さ) を指摘し、先々親亡き後、『『仕事も自分の家族もない』という“遺児”たちが、一気に家庭から社会に排出される』と警鐘を鳴らしている。

笑って済ませないのだろうが、本の紹介事例の中に、就職希望先アンケートに「家から自転車で通える所」と書く学生、娘の地方の就職先内定に「あなたが居なくなったら、誰と買い物に行けばいいの？」と反対する母親、等々。

親離れ出来ない子ども、子離れ出来ない親が多くなってきているということか。いやはや、大変な時代を迎えているようである。

「好きな人と歩くは祭り。嫌な人と歩くは修行。難儀をするが仕事！」というような自分は、もう過去の遺物か？